

水道の老朽化と見越し、持続可能な財政計画を

行政版クラウドファンディングの開始

有言実行の予算配分

行政サービスの一部、集落支援センターで

ふるさと納税で町内で使える商品券を送る

飲み会や仲良くする「佐川の日」を

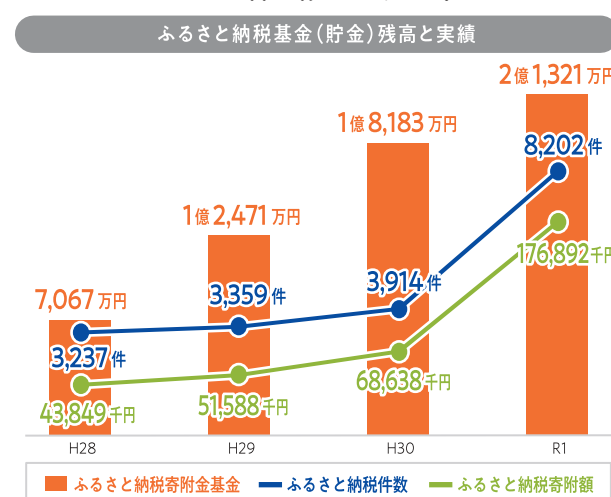
～将来を見据えた財政運営～

佐川町の財政は、収入のうち町税などの自主財源は約 1/4 であり、残りの約 3/4 は国、県からの補助・交付金や借金である町債に依存しています。決して余裕があるわけではありませんが、近年は国の地方創生施策やふるさと納税等を積極的に取り込むことで、財源確保を図っています。その結果、財政の健全性を示す健全化判断比率は、5つの指標全てが改善を要する基準を大きく下回っており、将来の行政のニーズにも対応できる健全な財政運営がなされています。



年々拡大するふるさと納税と返礼品

佐川町へのふるさと納税は年々増えており、令和2年度には2億3千万円を超え、基金への積立額も2億円を超えています。納税者への返礼品は、現在150種類以上、町内事業者にとっても新たな販路を開きつつあるとされています。



町民と役場をつなぐ広報・SNS



正確で、より見やすい、わかりやすい広報を、目指し、リニューアルや改善をおこなっています。

今後10年、特に力を入れるべきだと思うもの(行財政分野)



みんなでつくる 第5次佐川町総合計画

中間報告 3



みなさんの生活や想い、行動にも何か変化がありましたでしょうか？

まじめに、おもしろく、みんなでつくった総合計画も折り返し地点。5年間、町民一人ひとりの「やってみよう」という気持ちが発揮されるまちづくりに「チームさかわ」で取り組んできました。こうした様々な取り組みの“今”を3回にわたって紹介しています。

9月号 ⑤健康と福祉 ⑥安全・安心 ⑦行財政

5年間を振り返る動画を作成しました。ぜひご覧ください！

役場公式YouTube



令和3年9月1日発行

今月の表紙



佐川町ならではの化石発掘や山野草など、地域資源をいかした体験プログラムが、しめる「わんさかわ」つよい体験博が、今年も開催されます。もの・食づくりや野外体験を通じて、佐川の魅力を再発見！佐川町のいいコト・いいヒト・いい物語に出会ってつながり、広げて輪になって。佐川町の魅力をより多くの方に知ってもらい、さかわの「わ(輪)」を広げていきましょう！

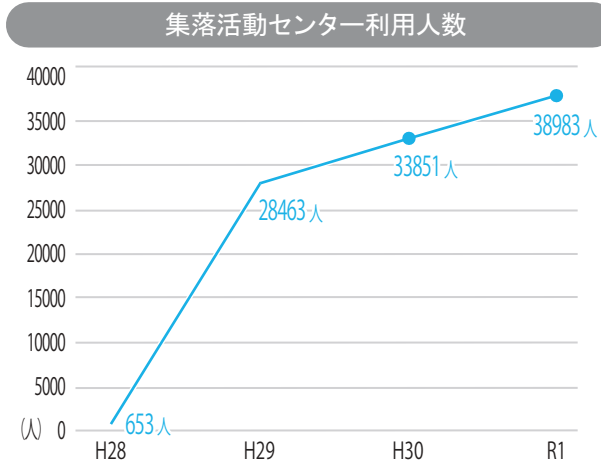
PICK UP CONTENTS

- P 2 [特集] 総合計画 中間報告 3
- P 8 高北病院
- P 10 子育て・健康応援ページ
- P 14 おしらせ
- P 25 地質館だより
- P 28 ボタニカルニュース
- P 29 青山文庫だより & 文芸
- P 30 さかわ観光協会
- P 31 さかわ発明ラボ
- P 32 としょかんだより
- P 33 学校だより-尾川小中学校-

「集落活動センター」

各地区とも住民主体の特色ある地域づくり活動が活発に行われ、住民同士のつながりを維持しながら地域の活性化に役立っています。

集落活動センターで行われたバーベキュー



あおぞら(斗賀野)

くらいわ(黒岩)

加茂の里(加茂)

たいこ岩(尾川)

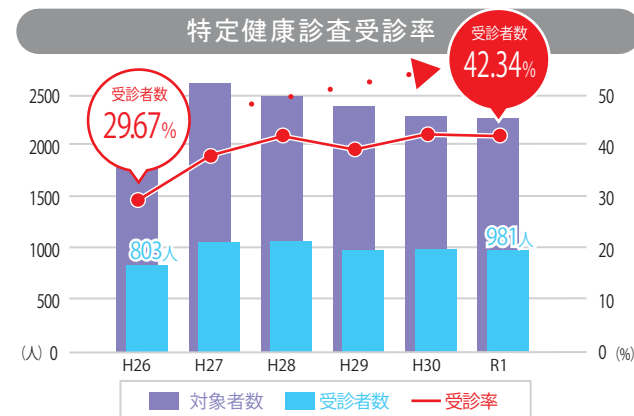
共生社会の実現に向けて「ぷらっとホームさかわ」オープン！



令和2年8月、「ぷらっとホームさかわ」が開所しました。この施設は、認知症にも対応したグループホームと、高齢者だけでなく障害者も利用できる共生型小規模多機能型居宅介護事業所の二つの役割を持っており、町内では初めて介護保険サービスと障害福祉サービスの両方を一か所て提供できるようになりました。施設の1階には、高齢者や障害者が地域住民と交流できるスペースが用意されており、これを活用して共生社会の実現につながる活動が期待されています。

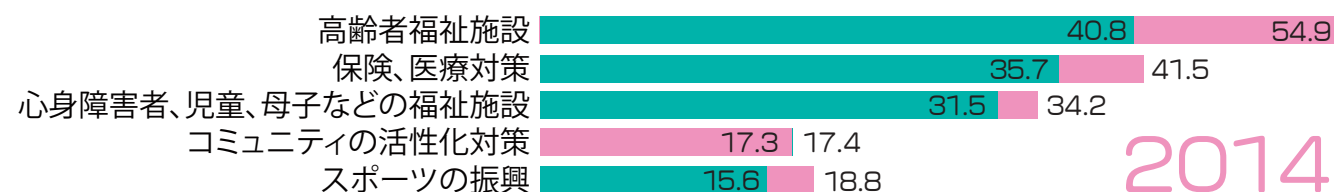
特定健診

平成27年度に特定健康診査の自己負担を無料化。28年度には第5次佐川町総合計画に「健康診断受診の習慣化の促進」を盛り込み、様々な取り組みが展開されています。多くの町民がこれらに参加し、健康づくりの意識も高まっています。



2020

今後10年、特に力を入れるべきだと思うもの(健康と福祉分野)

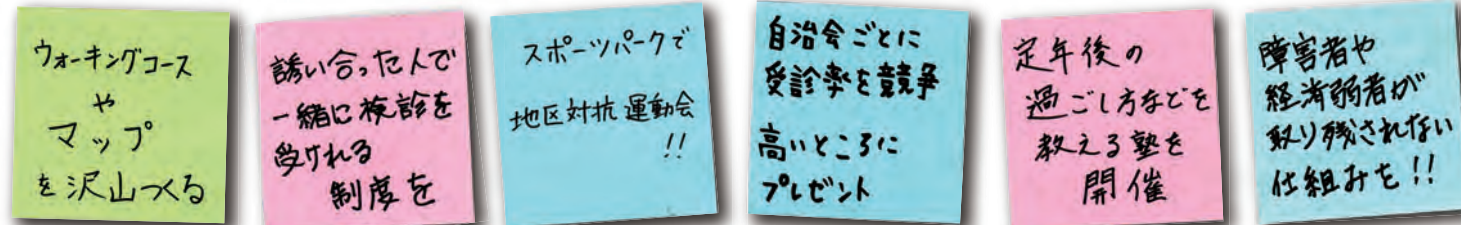


2014

高齢者福祉施設は、14ポイント以上の大きな改善が見られますが、今後も更なる健康と福祉の充実にも努めていきます。

2014

みなさんから寄せられた ご意見やアイデア。



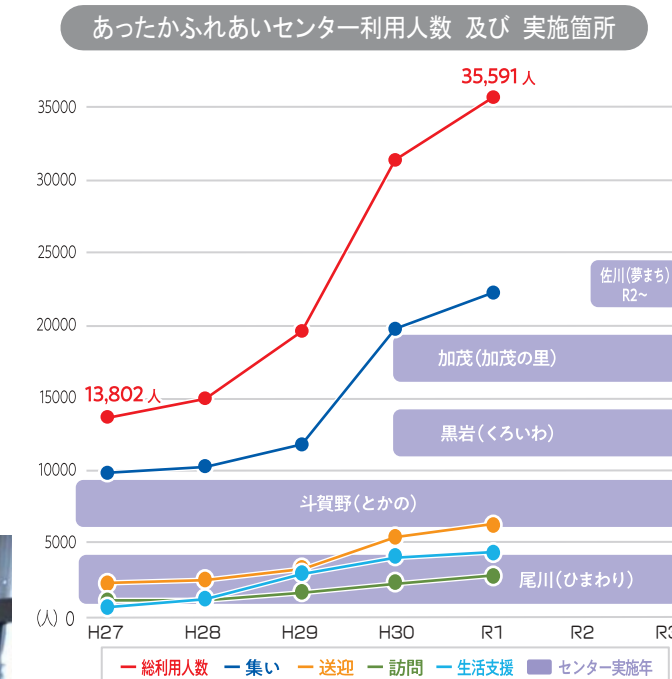
～住民の健康増進と支え合い活動の拠点として大活躍～

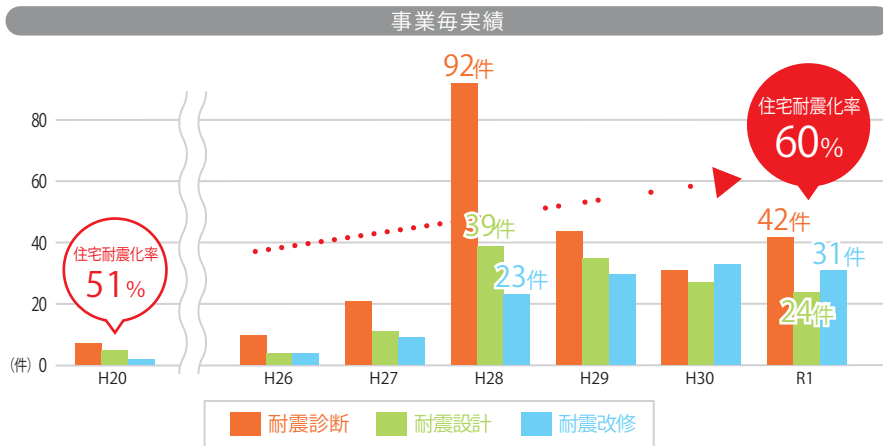


あったかふれあいセンターとかの あおぞら食堂の様子

「あったかふれあいセンター」

「集い」「訪問」「送迎」「生活支援」「交わる」「学ぶ」「相談」「つなぎ」といった、身近に寄り添う支援を地域と連携したイベントと組み合わせ実施するなど、各地域のスタッフが工夫して特色ある取り組みを展開し、利用者が年々増加しています。個人宅への見守り訪問のほかに、百歳体操グループへの訪問活動を実施するなど、住民の困りごとなどの相談や、地域課題を拾い上げる機会となっているほか、孤立防止にもつながっています。





急がれる住宅の耐震化

地震による建物の倒壊は、地震火災の発生や道路をふさぐことによる避難や救助活動の妨げにもなってしまいます。甚大な被害が予測される南海トラフ地震による被害を最小限にとどめるため、佐川町では平成17年から耐震化事業に着手し、住宅の耐震化や老朽住宅の除却に積極的に取り組み、耐震診断、設計、改修の件数も平成28年から大幅に増加しています。



老朽住宅除去前



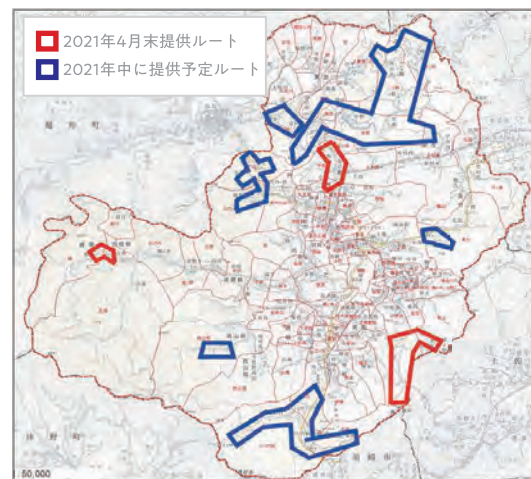
除去後



耐震化工事後の強化部の様子

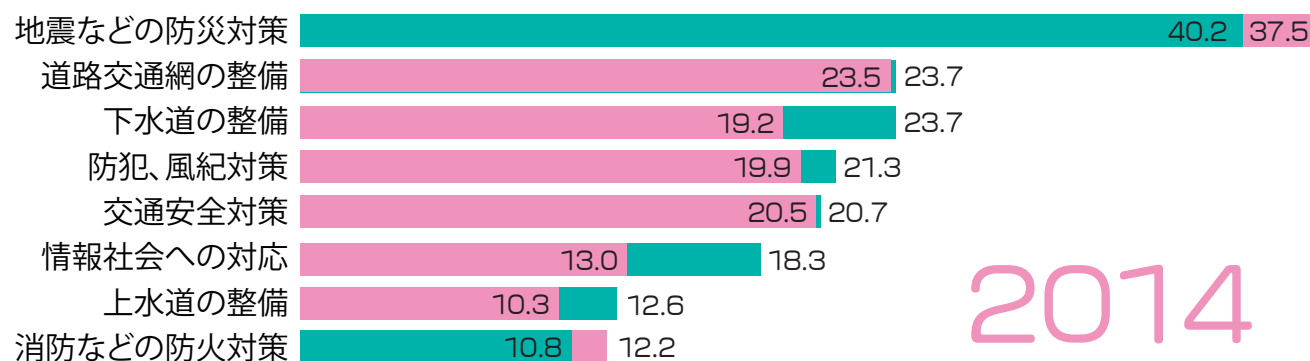
着々と進む町内ネットワーク整備

現代の生活や仕事に欠かせない情報通信環境。佐川町では、NTT 西日本による民設民営方式で整備が行われ、これまでに固定電話回線が通っているエリアの97.28%まで光通信の整備が進んできましたが、国の制度も活用して令和3年度中には整備率100%となる見込みとなっています。テレワークの推進や役場などの公共施設のICTネットワークの構築にも着手し、令和3年度には完成する予定です。役場内はもとより、町民と役場、町民同士のコミュニケーションが益々活発になり、チーム佐川でのまちづくりが一層進展することが期待されています。



2020

今後10年、特に力を入れるべきだと思うもの(安全・安心分野)

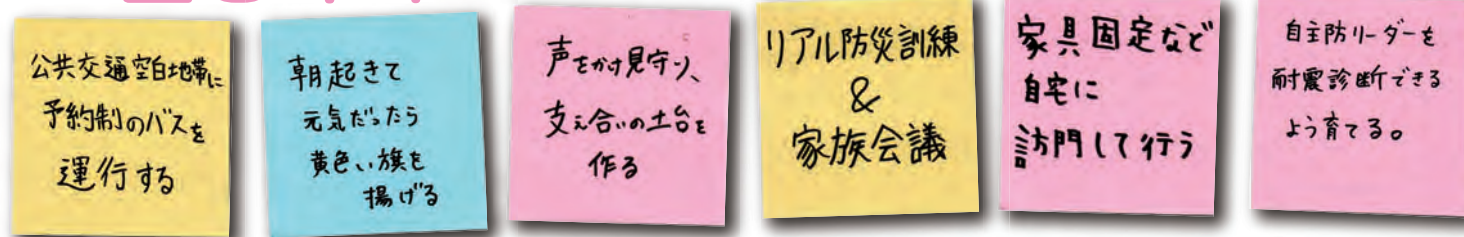


地震対策や、防火などには改善が見られますが、社会インフラの整備に関しては様々な対策が望まれています。今後もしっかりとしたまちづくりに取り組んでいきます。

2014

2014

安全・安心に関して 寄せられた、ご意見・アイデア。

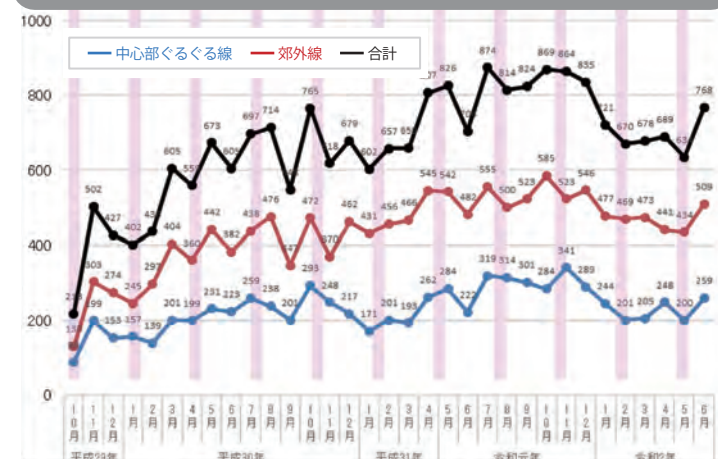


～町民の安全・安心な生活を支えるインフラ整備はこの5年間で着実に進んでいます～

さかわぐるぐるバス 路線図と運賃



さかわぐるぐるバス本格運行開始以降の利用者数推移



山野草デザインのバス、今日もぐるぐる佐川を巡る!



公共交通が行き届いていない地域の移動の便を改善するため、「さかわぐるぐるバス」が平成29年から運行を開始しました。1便当たりの乗車人数は、当初の1.3人から令和元年には2.47人に上昇。町民の身近な足として定着しつつあります。さらなる利便性向上のために、毎年、住民から聞き取りを行い、運行経路やダイヤの見直しを行っています。



生活に欠かせない道路・橋梁の長寿命化

佐川町では住民の日常生活や、いざという時の安全・安心に不可欠な基本インフラである道路、橋梁、トンネルなどを順次整備してきました。これらの多くは老朽化が進んでいますので、国の方針に基づき、将来の安全・安心の確保に向けて計画的な維持管理や更新等の取り組みが進められています。



改修前



改修後